

ミクロな生活空間における都市温熱環境の実態と  
市民主体の都市計画によるヒートアイランド対策手法の開発

代表 饗庭 伸（首都大学東京都市環境学部 建築都市コース 准教授）

委員 中山哲士（首都大学東京都市環境学部 建築都市コース 助教）

〔研究報告要旨〕

ヒートアイランド現象について様々な対策が講じられている。短期的な取り組みは多いが、都市の形を変えていくような中長期的な取り組みは、①建物、緑地、街路の計画理論が体系化されていないこと、②市民の持続的な取り組みを促成する手法が確立されていないことから、十分ではない。本研究は、ミクロなスケールにおける都市温熱環境と生活空間の関係を明らかにした上で、市民主体の都市計画によるヒートアイランド対策手法を開発した。

研究は3つのパートで構成される。

- 1) 歩いて対象地区全体の気温分布を計測する「街歩きによる気温実測調査」を行った。4回の調査を行い、地形地物にあわせた気温差等の実態を明らかにした。
- 2) 1)の結果からクールスポットを抽出し、気温や周辺環境の変化を継続的に計測・調査・評価する「クールスポット調査」を行った。40箇所の調査、22箇所の評価を行った。
- 3) 1) 2)と平行して、その過程に地域の市民を巻き込み、市民の「主体的な参加」を促成するための、ワークショップ手法、情報共有手法の開発を行い、参加者へのインタビュー調査によりこれらの手法の影響や評価を明らかにした。

都市計画には「ゾーニング」と「都市施設の建設」という実現手段があるが、「街歩きによる気温実測調査」の結果はゾーニングにつながり、「クールスポット調査」は都市施設の建設につながる。本調査では、前者は実態把握までにとどまり、継続した分析とゾーニング手法としての昇華が今後の課題である。後者については、市民主体での創出・維持管理が可能な「都市施設」と成り得る可能性が示唆された。民有地であるクールスポットの創出・維持管理は市民の手によって進める必要がある。そこで、市民向けに「クールスポットカタログ」を作成した。研究対象地では豊かな市民活動のネットワークが形成されており、こうしたネットワークを継続的にエンパワーメントし、そこから生まれる個別のパートナーシップを育成し、それらをつなげたところに、市民主体の都市計画によるヒートアイランド対策が実現していく。